

# 大久野通信 vol.5

もうすぐ春、ところで冬野菜は？



暖冬と言われる今年の冬ですが、大久野倶楽部の活動拠点は厳しい寒さです。少々欲張って品揃えをした冬野菜、勝率は今一步でした。ニンニクは絶好調、ほうれん草も成功でした。白菜、キャベツ、ニンジン、ネギは停滞気味、レタス、春菊、チンゲン菜は完全黒星です。そもそも種まき時期が遅すぎでした。霜の被害も甘く見ており、対策が遅かったのも敗因です。絶好調だった大根は、僅かの際に鹿に弄ばれてしまいました。Vol.5 では、白星から急転黒星に至った大根についてご紹介します。

スーパーに並ぶ野菜たちは立派ですよ。彼らは自然の厳しさを乗り越えたエリートであり、プロの作品なのだと痛感しました。

## INDEX

- ・自然豊かな日の出町
- ・大根育成試験の幕切れ
- ・鹿との知恵比べ
- ・今後の展望

## 自然豊かな日の出町

大久野倶楽部の活動拠点、東京都西多摩郡日の出町を改めてお浸しします。自然豊かな日の出町には、東西に清流平井川が流れています。その川沿いは、春から夏にかけて桜、藤、花菖蒲、つつじなどが美しく咲き誇ります。また、野生動物も息息しており、最近では熊の目撃情報もありました。活動拠点には、二ホンカモシカも良く遊びに来ます。

嘗ては林業で栄えたこの地域ですが、石油の普及に伴い元気を失ってしまいました。地球環境の観点から、石油依存の生活を省みる動きがはじまっています。自然豊かなこの地で、いろいろな体験をしながら脱石油を考えるのも悪くありません。



日の出町の山



大久野フジ



遊びに来た二ホンカモシカ

(出典：日の出町観光協会ホームページ (hinodekanko.jp))

(出典：日の出町ホームページ (town.hinode.tokyo.jp))

## 大根育成試験の幕切れ

RBSゴールドの効果を確認するため、3つの試験区を設け、昨年10月に大根の種を蒔きました。夏野菜で葉物への効果は確認していましたが、大根も同様に葉の育成は順調でした。そして真冬、根元に白い根を確認して1週間後、「おでんはやっぱり大根だよ」などと盛り上がりながら畑に到着して衝撃の光景が・・・大根の葉っぱが無い！周囲は1.5m程度のフェンスを設けていましたが、「鹿はひと跨ぎだよ」と地元の先輩たち。確かに、鹿さんの足跡が。葉の無い大根は栄養が絶たれて成長はストップ、一部には腐敗も発生、冬野菜の作物育成実験1年目はあっけない幕切れとなりました。ただ、痩せも大根は大根、丁寧に収穫して干し大根に。その後は、漬物などに加工して美味しく頂きました。めでたし、めでたし。



青々と茂っていた葉っぱは...



見事に食べつくされて...



それでも何とかこれだけは

## シカとの知恵比べ

昨年の春、害獣対策として販売されている柵類をAmazonで購入、イノシシ避けの内柵と鹿対策の外柵を施工し、鉄壁の守りじゃ！と高を括っていました。ただ、地元の先輩たちに依れば、1.5mは鹿にとっては陸上競技のハードルの如きで「ヒョイと一跨ぎだよ」とのこと。じゃあどの程度高くすれば・・・と途方に暮れていると、「2mくらいのところロープ張ると鹿は超えないよ」と貴重なアドバイスを頂きました。早速フェンスの上部に虎ロープを2本、これが功を奏したかそれ以降鹿の侵入痕跡は無くなりました。ただ、侵入チャレンジの痕跡は残っていました。体当たりでもしたのか、フェンスの一部に傾きが。跨がず突進を試みたのでしょうか。そうはさせまいと、ガッツリ補強もさせて頂きました！



害獣対策の二重柵



飛び越え対策のロープ



体当たり対策の補強

## 今後の展望

大久野倶楽部が目指す循環型社会、夏場は自生植物や昆虫たちに、冬は気象条件や動物に悩まされました。しかし、生物たちから見れば、人間が彼らの生活圏を荒らしているとも言えます。つまり、彼らを追い出すのは筋違いで、彼らと上手に付き合って共存する、気象条件にもうまく順応する、それが里山なのです。スマートレゾナンス構想の原点は、こうしたところにあるのでしょうか。そうは言いながらも、便利な生活に慣れた現代人は、最新の技術も持ち込みたくなります。現場経験を踏まえ、自然と共存するインフラの在るべき姿を考えて企画する、これもエンジニアリングです。

RBSゴールドの農業実証に着手して1年、まずは自然界の厳しさを体験するのみで、思うようには結果が出せませんでした。活動は、間もなく2年目に突入しようとしています。こうした汗の積み重ねで、漸く自然との共存が叶うのでしょうか。

干し大根の醤油漬けを肴に缶ビールを嗜みながら、気持ちを新たに大久野倶楽部です。